上郡にあって都会にないもの。
都会にあって上郡にないもの。

何かを始めよう。何かを求めよう。何かを感じよう。新しい上郡を。

町長／「豊かな自然に恵まれた、元気で人情味溢れる安全・安心な町」、これが上郡の目指す町づくりです。「豊かな自然」というのは、農業・畜産がしっかりできる環境。「人情味溢れる」というのは、地域のつながりがしっかりとあって、世間話や相談事も気軽にできる人間関係が築ける町。「元気な」は、心身ともに健康で元気に毎日を過ごし、充実した暮らしを送れるサポートの充実。「安全・安心」は、いのちの安全は勿論、個人・企業の財産もしっかりと守る行政、ということです。上郡町をよりよい町にするために、今日は若い人達の意見を聞かせていただければと思います。

山本／まずは、上郡で就職されたきっかけを教えていただけますか？

神田／もともと生まれも育ちも上郡でした。他の場所で働いていたこともありましたが、生まれ育った上郡が好きなので上郡に戻って就職しました。

桑田／僕は、結婚をきっかけに正社員募集を探していたのですが、生まれも育ちも上郡で、やっぱり上郡が好きだったので、地元で就職したくて探していたところ出会えた今の会社に入社しました。

小林／私は出身は上郡ではないのですが、動物に関わる仕事がしたくて弊社のことを知りました。実際に会社訪問をしてすごく雰囲気がよかったので。

竹内／僕も実家は町外なのですが、大学で赤穂市に住んでいて、その時に上郡を知るきっかけがあったんです。地元にすごく似ていて、町の雰囲気がすごく好きだったので上郡で就職しようと思いました。

山本／「都会」と比べて、やはり不便だなと感じるところもあると思いますがどうですか？

神田／食べるところが圧倒的に少ないなと思います。忘年会や懇親会など、会社のみんなで食事に行こうとなると、一時間かけて移動したりしています。

竹内／男の人の一人暮らしだと特になんですけど、食事の面が不便。飲食店もあるけど閉まる時間が早くて。

桑田／中心部にはあるけどちょっと奥に行くと、コンビニ・個人商店もなく不便ですよね。

町長／飲食店は結構あるんだけど、普段通らない場所にあると分かりにくですよね。

竹内／知らないだけで、意外とあるのかも知れないですね。

小林／私は今年の4月から上郡に住んでいるんですけど、本屋さんがあったらなと思います。インターネット環境はすごく整っていて、住むのにすごく便利だなと思うのですが、新しい知識を得るにはネットだけじゃなくて本も必要だなって思います。子どもや学生さんにとっても、本を読んで学んでいくことって大事だなと思うので。

山本／今度は、上郡の好きなところを聞かせていただけますか？

竹内／人が少ないからこそ、一人ひとりの人として必要とされているということを実感できる、というのが上郡町では大きいのかなと思います。仕事をしていても、地域のつながりがしっかりとあって、みんながお互いに支え合って暮らしている、というのをすごく感じます。

神田／僕はキャンプが好きなので、キャンプをしながら楽しめる蛍とか四季の景色とか、ここにしかないものだなって思いますね。

桑田／やっぱり自然が豊かなのはいいですよね。子どもものびのび暮らせるし。

小林／私の地元ものんびりした場所なんですけど大きい川がなくて。上郡にきて川で鮎が釣れるっていうのを知って、綺麗な川のそばで暮らすのっていいなって思いました。

町長／安室ダムのところのキャンプ場があって、水道設備もきちんと整っているし、すごく綺麗な清流でこどもが遊びやすい川もあるので、ぜひ行ってみてください。

山本／ビオトープ（生物の生息空間）といって、こどもたちが自然とふれあえる場所をつくろうということで、地元の人と町と県がみんなで協力して考えて作ったキャンプ場なんです。夏にはこどもが泳いだりして、すごく楽しそうですよ。

神田／そんなところがあるんですね、今度行ってみます！

小林／実際に住んでいても知らないこと、場所っていっぱいあるのかもしれないですね。

山本／みなさんが今されているお仕事についてはどうですか？

竹内／僕は社会福祉協議会で働いているのですが、幅広い年代の方と交流できることがこの仕事のいいところだなと思っています。子供会の事務局から高齢者の方のサポートまで色んな仕事内容があって、本当に色んな形で地域の方とつながりを持つことができるので、すごくやりがいを感じています。

桑田／私はガスのセキュリティ関連の仕事をしているのですが、仕事を終えて、お客様にありがとうって言っていただけるとすごく嬉しいなと思います。勤務は交代制ですが、センターは24時間体制なので、夜中でもお客様の元に行って対応するので、不安な気持ちを少しでも早く解消させて頂けるようにがんばっています。

山本／ガスセンターさん、本当に対応が早いですよね！

小林／ガスって不具合があるとすごく不安になるから、夜中でも来てもらえるのは本当に嬉しいですよね。私は、NGCで雛を卵を産む鶏に育てる仕事をしています。携われる期間は短いけど、その中でも毎日雛の成長をみられるのはすごく嬉しい。

神田／この前は、一日で 10万羽のひよこを受け入れる時があって、その日は本当に凄かったです。みんな大忙しで。

一同／そんなにですか！すごいですね！

山本／後進・後輩に向けてのメッセージはありますか？

小林／私は田舎出身で高校・大学のころは都会に憧れて住んだりしていたんですけど、今はここが好き。上郡の魅力をもっと知ってもらえたらなと思います。魅力のある企業があれば、どんどん仕事に就いてもらえて、上郡のことも知ってもらえるのかなって思います。

桑田／「上郡にもええ企業あるんやで！」ってPRしていきたい。あと、僕もこどもを保育園にいれているんですけど、割とすんなり入れて、待機児童が多い他の地域と比べると子育てもしやすいんじゃないかなって思います。

竹内／僕も、上郡のこどもの教育の質ってすごく高いと思います。一人当たりにかける時間が多いのかな。それに、学校や保育園・こども園だけでなく、地域全体でこどもを育てている感じがありますよね。

神田／こどもを育てやすい環境って、やっぱりすごく大切ですよね。

町長／今までは「企業」と「行政」は別という意識をもたれている方も多かったと思いますが、今回の座談会をきっかけに、これからはお互い力を合わせて「ONE TEAM」として上郡をよりいい町にしていけるといいですね。

上郡町 町長
遠山　寛

【次世代まちづくりクリエイター】
上郡で活躍する次世代の若手ビジネスマンの皆さんと町長と企業と行政との橋渡しを担う産業振興課の担当者に集まってもらい「上郡」について想いを語っていただきました。今回のテーマは「上郡にあって都会にないもの。都会にあって上郡にないもの」。興味深い話しが次々に飛び出し「貴重な時間になりました」と町長も感激することしきりでした。

株式会社 NGC
神田　和哉

株式会社 NGC
小林　香月

株式会社上郡ガスセンター
桑田　雅弥

上郡社会福祉協議会
竹内　優紀

上郡町役場 産業振興課
山本　亨紀

MEETS THE PEOPLE

良い人との〝縁〟のお陰で、それに支えられて今があると考えています。

薮本 陽輔

アニメーター

ある時、自分は本当にアニメーションが好きなのかどうかと疑問に感じた時がありました。それを確認したいという衝動に駆られ、一度仕事を辞めてみたら分かるかもしれないと思い始めたのです。そして実際に仕事を辞めて上郡の実家へ戻りました。

上郡町の自然や山々に囲まれ、母親の美味しい料理を味わい、町全体の包容力を感じていたら気持ちがどんどんと安らいでいくことが分かりました。ただ、落ち着くのと同時に、このままでは、今まで身につけた技術が低下し、どんどんと絵が下手になってしまうかもしれないという恐怖感にも襲われました。やはりアニメーションは自分にとって大切な仕事であることも再確認できました。ちょうどこの時期も、会社の人に恵まれており、上郡町で生活しながらアニメーションの仕事を続けてみてはどうかと声を掛けていただきました。そのお陰で、上郡町の実家で約2年仕事を続けることができました。

でも、この先、本格的にこの仕事をしていくには、それなりの環境の中に身を置いて取り組まなければならないという覚悟を持って再び東京に来たのです。

もう二十年近く東京に暮らしていますが、東京の人の多さや、その中を歩くこととかは今も苦手です。自分の仕事柄、通勤時間等は自由が利く方なので、すごいラッシュ時間に電車に乗るというわけではないのですが、それでも人が沢山乗っていて、圧倒されます。この大都会の中で自分の居場所を探すのは、未だに苦労している気がします。

上郡で仕事をしていこうとするみなさんへのメッセージ

上郡で就職し、勤務しているということは、既に自分の居場所を見つけ、しっかりと根付き、自信を持って働いているのだと思います。

地元に残って生活していくということは、決して一人ではないので、自分の力を信じて、そこでしかできないことや、やりたいことを見つけて、それを仕事として頑張ってほしいと思います。自分の居場所には、必ず良い『縁』があり、皆さんを支えてくれる人がいるはずです。

僕がこの仕事をしたいと思ったのは中学生の時なのですが、その頃から高校一年生くらいまで、落書き帳のようなノートに絵や漫画を書いていました。毎日それを学校へ持って行くと、友人が「見せて」と言って、見てくれていたのです。その友人たちがいたからこそ続けられたし、その友人たちが「おもしろかったよ」と言ってくれるのが嬉しかった。この気持ちは、現在も変わっていません。自分の作品を見てくれる人がいて、楽しんでくれている人がいるからこそ、この仕事へのモチベーションにもなり、一層の励みになって頑張れます。

現在、アニメーションは日本だけでなく外国の方々にも見ていただいているので、僕の描いたものを見てくれて、心にとめてくれたら嬉しいです。さらに何かのきっかけで、アニメーションの仕事を目指そうという人がでてきたらなおのこと嬉しいと思います。

以前、上郡町の郷土資料館で「けいすけじゃ」のアニメ原画展を開催した時に、トレース台をお試しコーナーとして設置したのですが、小学校低学年の少年がしょっちゅう来てくれて熱心に絵を描いていました。10年前くらいなので、ちょうどその子が今就職を考えるような年頃になっているのではないかと思います。その子が、今頃アニメーションの仕事に興味を持ってこの業界で働いてくれていたら良いなぁと思っています。

上郡町を離れて気づいた、上郡のありがたさ。

上郡にあって都会にないもの。都会にあって上郡にないもの。

初めて東京に来た時に、漠然とこの大都会には何か足りないと感じました。それは何だろうと思ったら、近くに山がないということです。上郡町に生まれた僕にとって、四方を囲む山は身近な景色であり、遊び場だったのです。実家にいた時には、それはあるのが当たり前で、特に何も感じていませんでした。

そして、東京での独り暮らしをスタートしてみて、もう一つ実感したことは、母親の手料理の美味しさでした。これも、上郡町を取り巻く山と同じで、実家を離れて暮らしてみたからこそ分かった本当のありがたみでした。子どもの頃から、父親は早朝から夜遅くまで仕事をしており、顔を合わせる時間が少なかったのですが、母親は、その父の食事や自分と妹たちのお弁当を作り、家の中のことをすべてこなした上で、自分の仕事もしていたものですから、本当に働き者でした。独り暮らしを経験したことで、その大変さを実感し、今でも心から尊敬しています。

薮本さんが東京の自宅で作った驚くほど精巧な上郡駅のジオラマ。ながめているだけで自然とリラックスできるのは故郷の持つスピリチュアルパワーだといえそうです。

薮本 陽輔

yosuke yabumoto

デュエル・マスターズシリーズなどを手がける注目のアニメーター。「テレビで見ているアニメがどのようにして作られているのかを、中学生の頃、アニメ雑誌で知り、そこからこの仕事に就きたいと考えていました。言うなれば、中学生の頃から描き続けた夢を仕事にしたのです。高校卒業後、大阪の専門学校へ進学しましたが、上郡の実家から大阪まで通学していました」と笑顔の素敵なクリエイター。

若いうちは自分に投資して自分にしかできないことを身につけておくこと。

濱田嘉幸

俳優

MEETS THE PEOPLE

役者をする上で大切にしてきた言葉があります。早く芝居が旨くなりたいと頑張っていた若い時に、ある舞台で出会った演出家さんに言われた『技術は荷物にならない』という言葉です。この言葉を支えに、今も忘れることなく大切にしています。

役者になりたいと思っても、現実はそう簡単にはいきません。上郡高校を卒業後、スーパーで約3年間働きました。働きながらも子どもの頃からの夢が忘れられず、休みの日を利用して週に2日、京都の東映俳優養成所までレッスンに通い、京都の撮影所に行くことになりました。東映京都撮影所に入ったばかりの頃は、1日のうちに通行人や、町人、大工、魚屋など台詞のない役を何役もやっていました。憧れの時代劇で侍になり「斬られ役」になるのはしばらくしてからのことです。殺陣は、相手役と互いの呼吸を合わせないと、怪我をさせてしまうこともありますので、経験が求められるからです。

撮影の無い日には「東映太秦映画村」でのショーやイベントに出演したりしながら、着付けや所作も学んでいきました。

京都で約8年間、役者を続けていました。しかし、だんだんと仕事にも慣れてくるうちに小さな不満が重なっていき、嫌だと感じることが多くなってきました。楽しく仕事ができないのであれば、役者の道をあきらめようと思うようになり撮影所の仕事を辞めました。

上郡に帰って来るようになってはじめて分かったこと。

京都に来てからは、ずっと役者としての収入だけで生活できていたのですが、仕事を辞めたので初めてアルバイトも経験しました。アルバイトで暮らしていくうちに、やっぱり自分には役者の道しかないと再確認できました。

それならこの機会に東京へ行こうと決意を固め、お金を貯めて30歳で上京したのです。

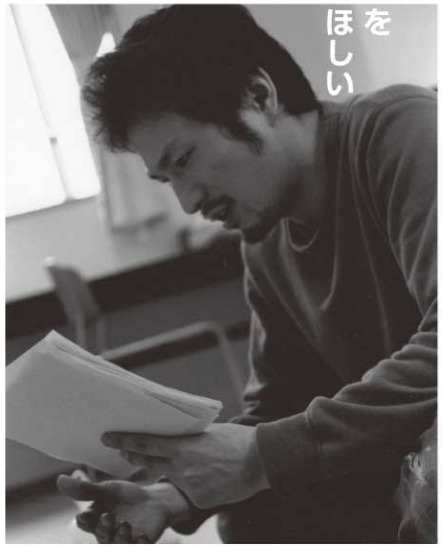
高校生の部活は弓道部に所属していました。弓道部で学んだ基本動作や姿勢は、時代劇をやる上で大きな強みともなっています。以前、「弓ができる役者」ということで、日本テレビの『知ってるつもり』という番組の中で北条時宗役をいただきました。若い頃に学んだり身につけたりした技術が、今の職業にも大きく役立っています。

役者は、いつ、どんな役がいただけるのか分からないので、何でもできた方が良いのです。これから社会に出ようとする若者たちに言いたいのは、お金は年をとると自然と稼げるようになるのだから、若いうちは自分に投資して、自分にしかできないことを身につけておくことを勧めます。今は、はっきり見えないことでも、きっと自分の経験とか技術とかが将来自分の役に立つことがあるはずです。若いうちは、自分の目指した役者の道で身を立てるまでは、帰れない、帰っちゃいけないという気持ちで生活していました。上郡町に帰ったら甘えが出てしまいそうでしたし、東京の生活で張りつめているものが、故郷へ戻ると緩むような気がしていたのです。

東京の生活で辛いことがあったりした時は、上郡を懐かしむよりも京都の撮影所の大部屋で同じ苦労をしてきた仲間を思い出しました。みんなも頑張っているのだから、自分も負けていられないと思っていました。

不思議なもので、帰省をするようになってから大きな役をいただけるようになってきました。今まで肩に力が入っていたものが、ふっと抜けたのかもしれません。

上郡町の良さをもっと知ってほしい



上郡にあって都会にないもの。都会にあって上郡にないもの。

東京に親戚がいたわけでもなく、知り合いがいたわけでもなく、自分の役者の道をたった1人で切り開いて東京で生きてきました。

役者にとって、東京にしかないものと問われたら『チャンス』ですと明言できます。ドラマや映画などを制作する人に、この役者を使ってみたいと思っていただき、「明日来られるか」と尋ねられた時に「行けません」では役は回ってこないのです。呼ばれてすぐに行けるという距離が、東京にいるという意味があります。

東京には人が沢山いて、同じ仕事をするライバルも多いのですが、同じぐらいチャンスも待ち受けていると思います。

上郡町は美しい山と川とが普通にありますが、自分が若い頃にはそれが当たり前すぎてありがたいものだと気づきませんでした。東京に来てから、自然のありがたみが分かるようになりました。

濱田 嘉幸
yoshiyuki hamada

[TVドラマ]
「Doctor-X」テレビ朝日　レギュラー・青柳学役にて出演
「デジタル・タトゥー」NHK 土曜ドラマ　中学教師役にて出演
「西郷どん」NHK 大河ドラマ　大木喬任役にて出演
[生年月日] 1974年7月19日　[血液型] O型
[趣味] 落語・演劇鑑賞　[特技] 殺陣・弓道・魚料理

上郡の企業ガイド

kamigori

上郡町（かみごおりちょう）は、自然豊かな山々に囲まれた中央部を清流千種川が流れる、美しい水と緑のまちです。
古代より、山陽道や因幡街道が通る交通の要衝として発展し、中世には赤松円心に始まる播磨守護赤松氏の本拠地として、幕末から明治にかけて日本の近代化に貢献した男爵大鳥圭介の生誕地として、多くの史跡や伝説を今に伝えています。
また、町の北東部に位置する播磨科学公園都市には、世界最先端の実験施設である「SPring-8」や「SACLA」があり、科学、産業、医療などの分野で注目を浴びています。

history

［1889年（明治22年）4月1日］
町村制に施行により、上郡村・井上村・大持村・山野里村・竹万村の区域をもって上郡村が発足。
［1913年（大正2年）4月1日］
上郡村が町制施行して上郡町となる。
［1955年（昭和30年）3月25日］
上郡町が高田村・鞍居村・船坂村および赤松村の一部（苔縄・大枝・大枝新・岩木・柏野・細野・赤松・河野原・楠および旭日の一部）と合併し、改めて上郡町が発足。